

# 平成28年度 島根県技術士会 新年例会 式次第

日時：平成29年1月14日(土)13:00～  
場所：松江市朝日町 松江エクセルホテル東急

1. 開会挨拶 研究部会長 和田 浩 13:00～13:05

## 2. 研究報告（共同研究）の発表

(1) 水資源・水環境分科会 13:05～13:35

土木遺産の水道用ダム視察～呉市上下水道局本庄水源地堰堤

篠田秀一

本年度、「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」が、文化庁から日本遺産の認定を受けた。この中では、軍港都市の誕生に貢献した近代技術として、本庄水源地堰堤を始め3つの水道施設が構成群に指定されている。今回、国家的な事業として整備された呉市水道事業を視察することで、明治から大正にかけての水道整備が日本の近代化にどのように貢献してきたかを検証した。

(2) 島根の地域振興研究分科会 13:35～14:05

八雲風穴研究および交流報告と今後の活用

坂田聖二  
嘉藤 剛

多年度にわたり風穴周辺で温度測定を行った結果を報告する。また長野県で行われた第三回全国風穴サミットへの参加報告も行う。

(3) 庭園文化研究分科会 14:05～14:35

建築との関わりから見た庭園

宇野 真一

「1.中世に現れる「会所」という建築と庭の関係について」、「2.主に雲流庭園にみられる庭の方位と飛石について」、「3.益田・小河家庭園の紹介」の3つのテーマで発表する。最初の2つは「建築」と「庭」の関係性に着目したものである。3つめは、個人庭のため知る人が少ない小河家庭園について、重森三玲の作品の中でも個人庭としては突出した存在であるため、改めて紹介する。

(4) 今福線研究分科会 14:35～15:05

動き出した「広浜鉄道今福線」

村上 英明  
和田 浩

平成27年に開催された「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」を機に、現地を訪ねる人々や今福線を題材としたツアーなどが増えている。官民連携した新たな組織も立ち上がり、浜田市の政策でもある「交流人口の拡大」の施策の一つとして「広浜鉄道今福線観光資源活用事業」が掲げられ、今後の広がりが期待されている。未成線であった今福線が地活活性化へ向けて動き出した本年の活動報告を行う。

【休憩】

15:05～15:15

- (5) 生物多様性研究分科会 15:15~15:45  
豊岡から島根の自然・地域づくりを考える 大嶋辰也

兵庫県豊岡市は、「コウノトリ」をキーワードに多様な地域づくりが進められている先進地域である。島根県で生物多様性の保全を内部目的化して地域づくりを進めるためのヒントを探すため、その先進地域を視察し、現地で活動されているNPOや自治体およびそれらの活動を積極的に支援している豊岡市の方々との意見交換を行ってきたので、その結果を報告する。

- (6) 江の川橋梁群調査研究分科会 15:45~16:15  
江の川橋梁群調査研究分科会 平成28年度活動報告 余村 浩

一級河川「江の川」には橋の博物館のごとく、様々な構造の橋が架かっている。今年度は、この地域の財産である橋をテーマとし、国立三瓶青少年交流の家・美郷町と共同し、体験型イベント「カヌーで橋めぐり」を企画、ガイド役として参加した。また、美郷町橋めぐりMAP、橋めぐりガイドブックを作成した。イベント及びガイドブック等の概要について報告する。

- (7) 防災部会 16:15~16:45  
島根県の内陸型地震とどう向き合うか 畑 和宏  
加藤芳郎

島根県の内陸地震に関して、県内の微小地震の実状と、これまで地震研究者がどのような論文を発表し、県内のどの場所で地震断層の痕跡を見ることができるのか。発表では、これらの内容に加え、県内の活断層の一つである弥叡山西断層と都茂断層を現地視察した結果についてご報告する。一人でも多くの県民が、島根県の地震と向き合い、想像し、地震災害に備えるきっかけになることを願いたい。

### 3. 研究報告（個人研究）の発表

- (8) 門外漢、原子力発電技術「トリウム熔融塩炉」を調べる ②

— 轟頂の引き倒しにならないために —

井上祥一郎 16:45~17:00

- (9) スサノオの来たみちを探る

吉田 薫 17:00~17:15

### 4. 日本技術士会の報告

渡部 修 17:15~17:30

### 5. 閉会挨拶

会 長 林 秀樹 17:30~17:35

【会場移動】

### 6. 懇親会

17:50~19:50